

## まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和2年10月24日（土）18：28～20：07

場 所：大井分公民館

出席者：10人

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

### 3. これからのまちづくり（資料1参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

### 4. 懇談

### 5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料2参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-1参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-2参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料2-3参照）

（4）空き家の情報提供について

### 6. 閉会

#### 《懇談内容》

##### 【栗山赤十字病院の改築について】

町民：せっかく大金を使って建て替えをするのだから、町民が栗山赤十字病院へ行くような病院にしてほしい。

町長：町内が70%、夕張、由仁が20%、その他が10%受診している。入院患者も同じ割合になっている。町民が受診してもらえる体制作りを検討していきたい。

町長：アンケートで一番多かったのは、受診科目に関する内容が多かった。整形外科が午前中のみの診療時間になっているので、午後も診察してほしいといった要望も出ているので、そういった要望にも答えられるようにしていきたいが、午後に診療するためには、医師がもう1人いなければならないため、医師確保が必要になってくる。

町民：病院に行くとなったら、栗山赤十字病院と言ってもらえるような病院になってほしい。

町民：通院患者の7割が町民とのことだが、町民全体にアンケートをしたことはあるのか。

日赤改築室長：全町民を対象にアンケートを実施した。通院したことがあると回答したのは全体の7割。そのうち51%が栗山赤十字病院、81%が町内の個人病院。町民の85%が町内病院等へ通院しているといった結果になっている。

町民：他の町の考えはどうか。他の町の病院は何か話が出ているのか。

町長：近隣の病院も病棟を専門的なものに変えるなど動きが出ている。近隣では長沼町立病院が一番古い建物になる。

町民：国から入っているお金の話が出ているが、今も多額の支援をしていると思うが。

町長：栗山赤十字病院には9700万円ほど補助をしていて、国から7300万円が戻ってくるので、実際の町の負担額は約2000万円。病院の規模をダウンサイジングすることで、国からの補助が上がる。町の実質負担が増えないような体制を作っていく。

町民：病床数が減ると国の補助が増えるという仕組みがよくわからない。

町長：病床数を100床にすることが、国の補助が一番いい。町の考えている方針と国の補助が結果的に一致したことになる。

町長：場所について、角田や栗山駅近くに建てたらどうかという考え方もあったが、国からの解体費用が補助対象外になることから、現地建て替えが一番現実的になる。今の建物の南側に敷地があるので、建て替えは現地建て替えを基本として進めていく。

町民：赤字経営で栗山赤十字病院が撤退するというような話も聞いたことがあるが。

町長：栗山赤十字病院は、全国的に赤字経営の病院が多い。町としては撤退されることが一番避けたい。栗山赤十字病院のメリットは、医師の確保が比較的容易であること。町立病院は、医師の確保がとても大変という話を聞いている。

町民：新型コロナウイルスの検査は、栗山赤十字病院でできるのか。

日赤改築室長：11月9日から、発熱外来の診療ができるようになり、予約制となる。PCR検査も可能になる。また、抗原検査もでき、1時間程度で結果が出る。11月の広報に詳細を折り込みする。

町民：無症状でも受診できるのか。

町長：自己負担になるが受診できる。高齢者など、負担を少なくして検査ができるような体制ができるようなものも今後検討していく。

町民：もし陽性になったら、どうなるのか。

日赤改築室長：岩見沢市立病院で入院となり、そこで検査となる。

町民：狭いまちだから、検査しているところを見られると困る。プライバシーを守れるようにしてほしい。

町長：誰でもかかる病気なので、誹謗中傷しないような体制を作っていきたい。

## 《質疑応答》

### 【その他（情報提供）】

町民：昔は、学区があり、岩見沢などの高校には行けなかった。学区が広くなり岩見沢の高校に行けることになったことが要因にあるのではないのか。また、昔のように小学区制に戻せば、生徒は栗山高校に戻るのではないのか。

教育長：平成18年度に学区の編成があり、岩見沢の学校に受験できることが可能になった。少

子化の影響で学区を広げて生徒を集めたいといったことが要因。学区枠を作り、外に出ていくのを制限することは一つの方法としてあることは承知しているが、なかなか難しいというのが現実問題としてある。

町民：特殊な学科を持つ学校にするなどの意見はないのか。

教育長：普通科だけではなく、地域の特色ある学科は作れないかといった議論は出ている。今後検討していく。

町民：町内でコロナの影響で事業ができなくなってしまった企業はどれくらいあるのか。

町長：コロナ関連で倒産した企業は1社ある。全体を把握していないが、コロナの影響で事業縮小したような企業もある。

町民：新型コロナウイルス対策本部は4月26日に立ち上げた。その倒産した1社は対策本部立ち上げの翌日27日に倒産。何か関連があるのではないか。

町長：対策本部の立ち上げよりも国の基準日はもっと前になる。さまざまな機関が調査した結果、コロナ関連の倒産と判断している。

町長：介護福祉学校は毎年8000万円の税金を投入して支援している。何とか、町の支援は将来的に4000万円以下にしていきたい。介護福祉学校が、将来的に必要な学校と認識される学校にしていきたい。介護福祉士の人材育成は深刻な国の問題。国は、介護福祉士を外国人や介護経験者に目を向けている。しかし、しっかりとした、介護福祉士養成を考えていかなければならない。

町長：先日、武田総務大臣が栗山に訪問したときに、介護福祉士の養成について、話をすることができた。大臣から国で何か良い方法はないか検討してみるといった電話での回答があった。

町長：大臣から、町立ではなく道立の養成校にしてはどうかといった話もあった。介護福祉士不足を道や国がしっかりと考えていく体制づくりが大切になってくる。

町民：介護福祉士の養成もそうだが、働く環境づくりも大事。

町長：介護福祉士の環境も少しずつ変化している。給料も少しずつ上がってきている。

町民：介護福祉学校ができた当時は、全道から生徒が集まってきている人気のある学校だった。

町長：月形は、町の施設に働くという条件で、介護福祉学校に入学する生徒への支援制度を行っている。そういった制度をとり入れている町は、南空知では月形だけになる。

町民：高校の学科の話があったが科を作る話は、そんなに簡単にできるものなのか。

教育長：正直なところ難しい。学科は地域の要望や割合なども考えていかなければならない。ただ、まったくできないという話ではないので、議論していきたい。

町民：農業科は作れないか。

教育長：普通科で農業に関わる授業などを作ることは可能。もちろん農業科を作ることもできなくはない。

町長：職員が、島根県などを視察して女子硬式野球部の状況を見てきた。普通科をなくして専門的な高校にするよりも、いろいろな授業ができる学校がいいと思う。女子硬式野球部は、まだ道内では少ない。北海道日本ハムファイターズの栗山監督との関係もあるので、将来的に栗山高校から女子プロ野球の話が出てくると面白いと思う。

20:07 終了